

15. バリック・ゴールド社(Barrick Gold Corporation)

1. 企業概要

本社	カナダ・トロント
主要事業	非鉄金属鉱山
従業員数	5,200人(子会社を含む)
決算日	12月末日

2. 財務状況 (US\$ million)

	2001年 ¹	2000年	1999年
売上高 Gold sales	1,989	1,330	1,421
当期損益 Net income (loss)	96	(766)	331
資産 Total assets	5,202	4,535	5,353
流動資産 Current assets	1,014	865	744
負債 Total liabilities	2,010	1,512	1,199
流動負債 Current liabilities	530	354	304
株主資本 Shareholder's Equity	3,192	3,023	4,154
探鉱費 Exploration ²	103	41	44

3. 主要鉱産物の生産・開発状況

主要鉱産物の生産推移

	2001年	2000年	1999年	2001年の 世界シェア
金 (t) ¹	190.5	116.4	113.8	7.3% (2位)

4. 沿革

バリック・ゴールド社(以下、「バリック社」)が金事業に参入したのは1983年のことである。新参の非鉄メジャーであるが、探鉱事業の成功、大規模な企業買収を通して急速に成長し、2000年末現在、アングロ・アメリカン社、ニューモント社、GFL社に次ぐ世界4位の金プロデューサーとなっている。

1983年4月、Cons Summit Mines社がPetrolnc Resources社とBarrick Petroleum Corp.社を買収し、Barrick Resources Corp.社が設立された。同社は、「ヘッジを通して金価格の変動によるリスクを最小限にする」ことを基本理念として、83年末にRenabie 鉱山(オンタリオ)、1984年にCamflo 鉱山(ケベック)を買収し、Valdez Creek 鉱山(アラスカ)とあわせて金の生産を開始した。

85年、Mercur 鉱山の権益をGetty Gold Mine Co.社から買収して社名を旧アメリカン・バリック社(American Barrick Resources Corp.)と変更、87年にはネバダ州カーリン・トレンドのゴールド・ストライク鉱床帯に権益を取得して、金プロデューサーとしての地位を確固たるものとした。

89年、カナダにおける最初の自社開発鉱山として、アビティビ・グリーンストーン・ベルトのホルト・マクダーモット鉱山の生産を開始した。

92年、ニューモント社との間でカーリン・トレンド北部地域における共同探鉱に合意、互

¹ 2001年12月14日にバリック・ゴールド社はホームステーク社(Homestake Mining Company)を合併しており、2001年の財務情報・生産量は両者を併せたものとなっている。

² 2001年の探鉱費には鉱量拡大のための周辺探鉱を含む。

いの調査データを共有することで効率的な探鉱が可能になり、その後のカーリン・トレンド開発にはずみをつけた。

94年6月、ラック社を買収し、チリ、アルゼンチン国境に広がるエル・インディオ・ゴールド・ベルトの権益を取得、同年、アビティビ・グリーンストーン・ベルトの3つの鉱山の権益を取得した。

95年1月、企業活動のグローバル化に合わせて、旧アメリカン・バリック社からバリック社 (Barrick Gold Corp.) に社名を変更した。

96年8月、Arequipa Resources Ltd.社を買収し、ラテン・アメリカではヤナコチャ鉱床に次ぐ大規模鉱床といわれるピエリナ・ベルト (ペルー) に権益を取得した。

01年にはホームステークス社を合併し、同社の北米、オーストラリアの権益を取得し、世界第2位の金生産社となった。

5. 事業内容

バリック社は対象を金に特化して事業を展開している。

バリック社の主要活動拠点は北米であり、2001年の同社の金生産量の55%を占めた。北米の中でも米国カーリン・トレンド鉱床帯のゴールド・ストライク鉱区からの生産は、同社の生産量の37%を占めている。

(1) 北米

米国ネバダ州カーリン・トレンド鉱床帯中北部にゴールド・ストライク鉱区 (約40 km²) の権益を保有し、ベツェ・ポスト鉱山、メイクル鉱山を操業している。また、カナダ・オンタリオ州にホルト・マクダーモット鉱山を保有している。なお、カナダ・ケベック州のブスケット鉱山は2002年に閉山予定である。

Homestake社の買収により、米国・ネバダ州のラウンド・マウンテン鉱山、カナダ・BC州のエスカイ・クリーク鉱山、オンタリオ州のヘムロ鉱山の権益を得た。

2001年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万 t	タイプ	品位	生産量 (権益分)
ベツェ・ポスト (米国) Betze-Post	100	98.8	OP	5.2 g/t	48.2 t
メイクル (米国) Meikle	100	8.2	UG	15.0 g/t	22.2 t
ホルト・マクダーモット (カナダ) Holt-McDermott	100	1.2	UG	7.3 g/t	2.6 t
ラウンド・マウンテン (米国) Round Mountain	50	215.0	OP	0.65 g/t	23.2 t (11.6 t)
エスカイ・クリーク (カナダ) Eskay Creek	100	1.3	UG	42.7 g/t	10.0 t
ヘムロ (カナダ) Hemlo	50	39.5	UG、OP	4.0 g/t	19.0 t (9.5 t)

ゴールド・ストライク鉱区の鉱石のほとんどはシアンによるリーチングが難しい難溶鉱であり、トータルで17,500 t/dの処理能力を持つオートクレイブが備えられ、2000年には炭質工を処理するためのロースターも完成した (トータル処理能力12,000 t/d)。

89年1月、ベツェ鉱山 (硫化鉱) とポスト鉱山 (酸化鉱) の開発を含むベツェ開発計画が公表された。ベツェ・ポスト鉱山は、92年、旧アメリカン・バリック社とニューモント社との合意に基づくベツェ鉱山の拡張計画に伴い、鉱山名が改称されたものである。本合意は、カーリン・トレンド北部地域の両社保有鉱区において深部低品位鉱の探鉱・開発を共同で実施するとしたもので、同時に旧アメリカン・バリック社保有の難処理鉱をニューモント社の

所有するバクテリア・リーチング技術によって処理する契約（利益の50%をニューモント社に分配）が含まれていた。なお、本合意は共通で開発する部分が完了したため、2000年に終了している。2001年の同鉱山の生産量は世界4位、トータル・キャッシュ・コストはUS\$ 215/ozであった。

マイケル鉱山は、ベツェ・ポスト鉱山の北1マイル（約1.6km）に位置し、92年、尾鉱堆積場のボーリング調査で偶然発見された高品位鉱山で、2001年の生産量は世界15位、トータル・キャッシュ・コストはUS\$ 147/ozであり、2000年のUS\$ 117/ozより上昇しているが、これは、2001年第2四半期に生産を開始したロデオ鉱床が低品位であることによる。

ラウンド・マウンテン鉱山は、Echo Bay Mines社とのJVで、世界第14位（2001年）の生産量を誇る。なお、2001年のトータル・キャッシュ・コストはUS\$ 187/ozであった。

ヘム口鉱山は、David Bell及びWilliamsの坑内掘鉱山及びWilliamの露天掘鉱山からなり、テック・コミンコ社とのJVである。2001年のトータル・キャッシュ・コストはUS\$ 196/ozであった。

(2) 南米

現在生産中の鉱山は、ペルー・ピエリナ鉱山のみである。チリ・アルゼンティンの国境をまたぐ金鉱床帯であるエル・インディオ・ベルトのエル・インディオ鉱山は2002年に閉山している。また、Homestake社が権益を有していたチリのAgua de la Falda鉱山も2002年に閉山した。

2001年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万 t	タイプ	品位	生産量
ピエリナ鉱山（ペルー） Pierina	100	81.0	OP	1.8 g/t	28.3 t
バスクア・ラマ（チリ/アルゼンチン） Pascua-Lama	100	268.9	OP	2.0 g/t	開発準備中
ベラデロ（アルゼンチン） Veladero	100	196.6	OP	1.5 g/t	開発準備中

エル・インディオ・ベルトは、チリ、アルゼンチン国境の、長さ175 km、幅10～15 kmの範囲に広がる金、銀、銅に富んだ地域である。60から70年代、本地域では地元の個人採掘者によってわずかに採掘が行われていたが、75年、Joe Minerals Corp.社により鉱体が発見されて本格的な探鉱・開発が始まった。

バスクア・ラマ・プロジェクトは、エル・インディオ鉱山の北50 km、エル・インディオ・ベルト北端に位置する。当初、2000年12月に本格的な開発を開始する予定であったが、金及び銀価格の低迷により、開発は先送りされている。一方、同鉱床の近傍のアルゼンチン側にあるベラデロ鉱床は、2002年にF/Sを終え、2002年11月から開発が始まった。2006年から生産開始が予定されており、総投資額425百万ドル、マインライフ13年、金生産量530千oz/年、トータル・キャッシュ・コストUS\$ 155/ozが見込まれている。

(3) タンザニア

タンザニアのビクトリア湖南方56 kmに位置するブルヤンフル鉱山（Bulyanhulu）の権益を保有する。

2001年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万 t	タイプ	品位	生産量
ブルヤンフル鉱山（タンザニア） Bulyanhulu	100	25.4	UG	14.7 g/t	7.5 t

同鉱山は、グリーンストーン・ベルト中にあり、2001年4月に正式に開山した。

ブルヤンプル鉱山は、76年に地元の牧夫が発見し、タンザニア政府により探鉱が進められてきた。90年代初頭には、プラーサー・ドーム社が探鉱を実施したが、92年に撤退し、94年に当時 Sutton Resources 社の子会社であった Kahama 社が鉱業権を得て、探鉱を進めてきた。98年にはインフラ整備や坑道の掘削を始め、99年にバリック社が Sutton 社を買収し、同鉱山の権益を獲得、鉱量拡大のための探鉱を行うとともに、開発を進めてきた。2001年のトータル・キャッシュ・コストは US\$ 197/oz であった。

なお、バリック社は、タンザニアのビクトリア湖周辺に 6,000km² 以上の探鉱鉱区を有しており、平坦で湿気が少ないため探鉱費が低いという理由から積極的に探鉱を行っている。

(4) オーストラリア

Homestake 社の買収により、オーストラリアに金鉱山の権益を得た。

2001年主要権益保有鉱山による鉱石生産

オペレーション名	権益 %	鉱量 百万 t	タイプ	品位	生産量 (権益分)
ブルトニック (オーストラリア) Plutonic	100	7.7	UG、OP	6.4 g/t	9.0 t
ローラーズ (オーストラリア) Lawlers	100	3.2	UG	4.9 g/t	3.2 t
ダーロット (オーストラリア) Darlot	100	7.3	UG	5.7 g/t	3.9 t
カルグーリー (オーストラリア) Kalgoorlie	50	169.9	OP	2.1 g/t	24.0 t (12.0 t)

ブルトニック、ローラーズ、ダーロットの各鉱山は西オーストラリア州の Yilgarn 地域にあり、2001年のトータル・キャッシュ・コストはそれぞれ US\$ 166/oz、US\$ 191/oz、US\$ 173/oz であった。

カルグーリー鉱山はニューモント社との JV の鉱山であり、オーストラリア最大の金鉱山である。2001年のトータル・キャッシュ・コストは US\$ 203/oz であった。

6. 探鉱戦略

(1) 概要

バリック社は、トロントの本社が探鉱活動を統括し、米国、チリ、アルゼンチン、ペルー、タンザニア、オーストラリア、ロシアに地域事務所を置き、探鉱活動を実施している。

同社は、企業買収などによって調査の進んだ有望鉱床の権益を取得し、開発前の最終段階の探鉱のみを自社で行うことで、低いリスクで確実に収益を上げることに成功してきた。しかし、近年の世界経済情勢の変化から、ジュニア・カンパニーの活動が低迷し、バリック社は十分なインフラが整っている地域として、ペルー、タンザニア、オーストラリア、チリ・アルゼンチンの4地域について、自ら初期探鉱を実施することとしている。

2001年の同社の探鉱予算は US\$80.0 百万であり、主要非鉄金属企業中第2位であった。

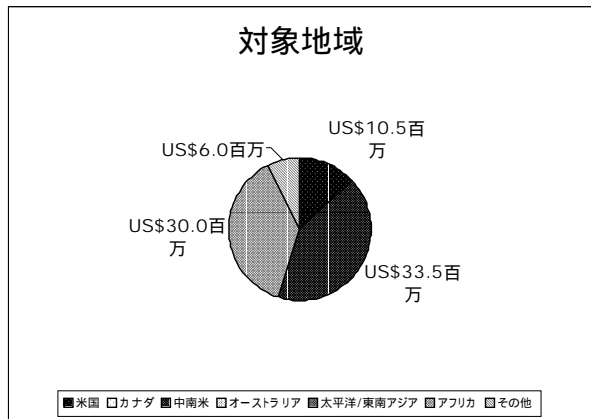
(2) 対象鉱種

金のみを対象としている。

(3) 対象地域・探鉱段階

中南米地域に予算の4割程度を充てているほか、アフリカに4割近くの予算を充てている。

探鉱段階に関しては、2000年の探鉱予算はグラス・ルーツに US\$24.0 百万 (30%)、事業化調査に US\$31.0 百万 (39%)、鉱山周辺探鉱に US\$25.0 (31%) を充てている。



(4) 最近の動向

(中南米)

ペルー北部の Alto Chicama 地区で探鉱を進めており、これまでに 60 本のボーリングを実施し、予想埋蔵量 61 百万トン、金品位 0.57 oz/t が計上されている。

(オーストラリア)

Homestake 社の買収により、ニュー・サウス・ウェールズ州の Cowal 鉱床の探鉱を実施しており、同鉱床は推定埋蔵量 51.1 百万トン、金品位 1.68 g/t とされており、詳細な評価を行うためボーリングを実施している。